

タイトル『 鬼遊び (おにあそび) 』

著者：廣嶋 玲子

出版社：小山峯書店

- この本は、タイトルのように鬼が出てきます。それぞれのお話には、
- ちがう鬼が出てきてドキドキワクワクします。そんな中一番好きな
- のは、「骨髄骨の手まり歌」のお手玉です。このお話は、
- 千十という反物屋の女の子がいました。その子は妹、弟そして友達
- にまで自慢をしたり、いばってました。そして母に注意されたのにも
- かかわらず、お気に入りのお手玉をもちまた友達に自慢いきました。
- そして千十はある木で1人の女の子を見つけました。その女の子は、
- 髪はほろほろで、うぶぶで赤い着物は丈も袖も短いそんな女の子
- の手には、きれいな玉がありました。女の子はその玉でお手玉をして
- 千十は見ているうちにその玉がほしくなっていた。そして千十は女の子に
- 話かけた。そしてその玉をかしてと言ったがその女の子はお気に
- 入らなと言いかしてはくれなかつた。どうしてもほしい千十はその女の子に
- 勝負かかろうか考えていた。その女の子が「そんならさ...勝負しよう
- か?」と言い千十は、その女の子と勝負することにしました...
- 私が言えるのはここまでです。続きが気になる方はぜひこの本を
- 読んでみてください。※注意...人によっては怖い話かもしれないので
- そうゆうのが大丈夫な方は読んでみてください...



投稿日 2022年 2月 13日

ペンネーム (本名は書かないでね!)

木のふろろ

年齢

13

仙台市若林図書館 YAコーナー